

全国学力・学習状況調査の概要

学 力 面	学 習 状 況 面
<成果> 【6年生】 ○国語科は、全体的に全国平均と同等の力を付けている。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の力がついている。 ○算数科は、全体的に全国平均と同等の力を付けている。基礎的な知識・技能が定着している。 ○底上げができてきている。ばらつきが少ない。 【9年生】 ○国語科は、「知識及び技能」特に「情報の扱い方に関する事項」において、正答率が全国平均と同等程度の結果が出ている。(基礎基本の定着) ○数学科は、「数と式」「データの活用」領域において、正答率が全国平均と同等程度の結果が出ている。(基礎基本の定着) <課題> 【6年生】 ▲国語科では、「読むこと」の領域の力がやや弱い。目的に応じて必要な情報を探し、構造を把握したり要約したりする力が弱い。 ▲算数科では、「変化と関係」「データ活用」の領域が弱い。 ▲複雑なデータが読み取れない。いろいろな角度から物事を読み取る力が弱い。 【9年生】 ▲国語科では、「読むこと」領域に関しては、どの問題形式においても全国平均と比べて下回っている。(問題の意図を理解し、解答することができていない。) ▲「図形」「関数」の領域においては、全国平均を下回っている。(思考力・判断力・表現力の問題に弱い。)	<成果> 【6年生】 ○自己肯定感が非常に高く、学校生活に対して極めて肯定的である。 ○将来に前向きで学習に対する有用感を感じている。 ○ICTの活用に積極的である。 ○対話や多様な意見を好む傾向にある。 【9年生】 ○「自分にはよいところがある」というアンケートに肯定的回答が多い。 ○「人が困っているときは、進んで助けていますか。」というアンケートに肯定的回答が多い。 ○どの教科においても、「将来役に立つ」と感じて学習にできている生徒が多い。 <課題> 【6年生】 ▲読書量が少ない。 ▲朝食や睡眠、家庭学習の定着などの基本的な生活習慣が確立されていない児童の割合が平均と比べて多い。 ▲ゲームやスマホを使う時間が多い。 【9年生】 ▲家庭学習での学習時間が少なく、学習習慣の定着に課題がある。(SNSの利用時間が多い) ▲どの教科においても、学習に主体的に取り組む姿勢に乏しい。

改 善 策
寄 島 学 園 で の 取 組

①「学習意欲」の向上を目指した取り組み ・「できた・わかった」があふれる授業づくり(学習に対して前向きになる) ・安心して学習できる学級づくり(自己肯定感のさらなる向上、SELの実践) ②「読む」力の育成 ・「朝学チャレンジ」(読解力向上のための取り組み)の継続的实施・内容の改善 ・「読解問題の解き方の仕方」を指導(モデルやルーブリックの活用・児童生徒自ら考え、理解し、解答する) ③「家庭学習」の習慣化 ・継続して家庭学習に取り組めるような工夫(課題の量や質、ICTの活用) ・取り組みに対する「個に応じたフィードバック」(学力の定着を図る工夫) ・AI型学習教材「キュビナ」の活用・活用の意味や価値の共有	家庭・地域へのお願い CS運動「認めて ほめて 励まそう!」 ・家庭学習の時間を確保できるよう、声を掛けてください。 ・生活リズムが学習習慣につながることから、基本的な生活習慣を定着させるようお願いいたします。 (「チャレンジ寄島」の取組) ・特にファーストステージのうちは、親子の読書時間を大切にして、読書の習慣がつくようお願いします。 (第3日曜日親子読書の日) ・学校行事や学習支援ボランティアに参加いただき、子どもたちの頑張りをほめてください。
--	---